

STEP 3 主観調査による地域特性の把握

STEP 3-1 : 調査内容の検討

STEP 3-2 : 調査方法の検討

STEP 3-3 : 調査の実施・結果の整理

地域住民の実感などの深掘りした情報を活用して、データをもとに設定した仮説の検証を行うために、目的に沿った効果的な調査の内容・方法を検討し、実施した調査の結果を今後の取組に活用する

取り組み方のポイント

ワークシート

《STEP 3-1》

調査内容の検討
(p.49~54)

- ✓ データをもとに設定した少子化の要因に関するライフステージごとの仮説の検証に向けて、仮説の内容に応じて効果的と考えられる **調査の対象・内容を検討**する
- ✓ 主観調査に当たっては、客観的データでは把握しにくい地域住民の実感などの情報を掘り下げて調査する

要因仮説を踏まえた
調査内容の検討
(p.12)

《STEP 3-2》

調査方法の検討
(p.55~60)

- ✓ 目的や用途を踏まえて、**アンケート**や**ヒアリング**など適切な調査の手法を検討し、地域の事業者や子育て関連施設など、様々な **地域資源に協力を求め、当事者の声を拾い集める**
- ✓ 新たに調査を実施するだけでなく、過去に実施した **既存の調査結果** も活用しながら、幅広い視点の情報を検討に取り入れる

調査方法の検討
(自由記述)
(p.13)

《STEP 3-3》

調査の実施・結果の整理
(p.61~66)

- ✓ 目的に応じて実施した調査の結果をとりまとめ、ライフステージごとの **仮説との整合性についての検証につなげる**
- ✓ 調査の結果として得られた仮説との整合性に関する見解に加えて、**新たに得られた発見や洞察**を、今後の方針の検討につなげていく

実施した調査の結果と
今後の検討方針を
まとめる
(p.14)

【解説】 検証したい仮説をもとに、調査が必要な事項を整理する

データをもとに設定した仮説の検証に向けて、効果的な調査の内容や手法を整理する

- ✓ STEP 2 で出生を取り巻く幅広いデータをもとに検討した少子化の要因に関する仮説を踏まえ、さらに地域の実態に沿った特性をつかむために、どういった観点から掘り下げるべきか、調査の目的、手法を整理した上で、地域住民へのヒアリング・アンケートや、地域独自の詳細なデータの収集などの調査を進めていく
- ✓ 調査する内容の明確化に向けて、例えば以下の 1 ～ 4 の手順に沿って事前の準備を行うことが考えられる

調査の事前準備の進め方

準備の手順

1. 問いを立てる

(※) データの比較により、着眼点を整理する

2. 仮説を洗い出す

(※) 調査の目的となる地域の“課題”を考える

3. 仮説をもとに必要な調査の内容を整理する

(※) 優先順位も併せて検討する

4. 調べ方を検討する

取り組み方のポイント

- 調べる内容の“あたり”を付けるために、STEP2で収集したデータを基に、(過去や他地域との比較で) 特に高い/低い状況となっている指標を見定め、調査に当たっての着眼点を掘り下げる
- 少子化の要因としてどのような課題があるか、仮説を立てる
(例) 課題 (例えば地区によって子育てサービスの活用状況に差がある) に縁がある方を自分の身近なところも含めて探して、質問してみる
- 調査の結果がどうなれば仮説が正しいと判断できるかの考え方と、もし仮説が正しいとすればどういった対応が必要かの視点を前もって整理し、優先順位を付けながら調査内容を整理する
(例) 優先順位は、例えば課題の影響力の度合いなどを踏まえて検討する
- 調査内容を明確にしたら、担務や過去の類似調査の実績などから、どの主体 (関係課・係) が担当者として適切か、どこを対象に調査をすれば効果的かなどを考えながら、調査手法を検討する
(例) 企業や労働者の関係は産業・雇用部門、住宅の関係は住宅部門などに過去に類似の調査を行っていないか、また調査対象へのツテがないかなどを聞いてみる

【解説】 仮説に合わせて調査する対象を具体的に整理する

出生に関連する指標の現状から導かれる仮説に応じて、様々な視点で調査する対象を検討する

✓ 仮説に応じて調査の対象や内容は様々なものが考えられるが、出生に関連する指標の現状から導かれる仮説と、それらに対応した調査の対象の関係性としては、例えば以下のような例が考えられる

現状から導かれる仮説と調査対象（一例）

※下記はあくまで一例であり、様々な指標を組み合わせて仮説を設定する

出生に関連する指標		市町村の“現状”	地域の様々な指標を踏まえて導かれる“仮説”	仮説の検証に向けて効果的と考えられる“調査の対象”
結婚		<ul style="list-style-type: none"> 女性の有配偶率が周辺の地方公共団体や県平均より低い 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の雇用比率が高いことを踏まえると、就労環境がネックになっているのではないか 町の主力産業における有配偶率が相対的に低いのではない 出会いの場が少ないのではない 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員数等をもとに選んだ地域の主要産業・主要企業に、「女性社員の働き方や各部署の男女比率」をヒアリング 業種別・都道府県別の有配偶率のデータと、地域のデータを比較 過去の住民アンケートをもとに、地域の女性の「結婚の意欲や出会いの機会」に関する質問の回答を確認
出産	第1子	<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率が全国平均より低く、出生順位別で見ると第1子の割合が全国平均より低い 	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの要因で、子どもを希望する世帯が抑制されているのではない 第1子を産んだ後に周辺の地方公共団体から転入してくる世帯が多いのではない 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の住民アンケートをもとに、「現在と理想の子ども数」等に関する回答を確認 年代別や子どもの有無別などで転出先・転入元に関するデータを確認
	第2子以降	<ul style="list-style-type: none"> 第2子以降の合計特殊出生率や有配偶出生率が周辺の地方公共団体や県平均より低い 	<ul style="list-style-type: none"> 第2子以降の出生率が低いのは、子育て支援の環境に課題があるのではないか 子どもを見守る周囲の環境などコミュニティの希薄化が要因ではない 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援拠点や子育て支援を行っているNPO・保健所等へ、「子育て支援サービスの課題」についてヒアリング 近隣住民へのインタビューなどを通じて、「子どもが遊ぶ環境や地域のコミュニティの活動状況」などを把握
転出入	若年層	<ul style="list-style-type: none"> 若年層（15～24歳）の転出数が転入数より多い 	<ul style="list-style-type: none"> 20代前半の女性の転出が多いのは、女性が働きやすい職場が少ないからではない 10代の転出が多いのは、進学によるものではない 	<ul style="list-style-type: none"> 自地域や近隣の地方公共団体の企業の女性の就労環境や、有効求人倍率等の推移を確認 自地域や近隣の地方公共団体の高校の進路状況を確認
	子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> 結婚・子育て世代（25～39歳）の転出数が転入数より多い 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚後に転出が多いのは、働き口や家賃相場の影響などで周辺の地方公共団体に流出しているからではない 	<ul style="list-style-type: none"> 転出者に行ったアンケートの回答（転出理由）を確認 不動産会社の発表している賃料相場情報などにより、周辺の地方公共団体との家賃相場を比較

【解説】 データでは把握しにくい住民の実感を調査する

主観調査では、客観的データでは把握しにくい地域住民の実感などの情報を掘り下げて調査する

- ✓ 客観的データでは弱いと出ていた分野に関して取組の満足度を調べるなど、データからはわからない地域住民等のまちに対する意識を掘り下げて、適切な調査の手法はどういったものかも念頭に置きながら調査内容を検討する
- ✓ 近隣の他市町村や都道府県平均などとの比較を意識して、自分たちの地域ならではの特性を把握する
- ✓ 調査は新たに実施するだけでなく、既存のものを参考にできないかメンバーや関係部署の協力を得て情報収集を行う

主観調査の調査項目の例

分野	個別項目	調査する内容の例
賑わい・生活環境	生活利便性	・生活圏域に必要な店や施設が コンパクトにまとまっているか / 公共交通機関や道路網は充実・利用しやすいか
	まちの活気	・余暇を楽しむ場所や機会は充実しているか / 文化・スポーツ施設やイベントには参加しやすいか（広域の観点も含む）
	教育環境	・教育環境は充実しているか / 学生と地域とのつながりはあるか
家族・住生活	住生活	・ 若い世代向きの比較的安価な住宅はあるか 、駅や各種施設などに アクセスしやすい場所に立地しているか
	家族、親族	・親戚つきあいの頻度はどうなっているか。例えば、急用の際にこどもを預けられる人や施設やあるか / 近居率はどうか
地域・コミュニティ	地域活動	・ 若い世代の地域活動への参加頻度はどういったものか / 地域の祭りやイベントへの参加頻度はどういったものか
	市民活動	・ボランティアやNPO・市民活動への参加頻度はどういったものか
	安心・安全	・治安がよいか / 自然災害の頻度はどうか、災害が起こった際の防災体制（住民の協力関係）はしっかり整っているか
	まちへの愛着	・ 若い世代のまちへの愛着や誇りは培われているか
医療・保健環境	医療	・夜間・休日の緊急診療体制は整っているか
	保健	・母子保健サービスは生活圏内の身近な場所に整っているか、 困ったときに相談しやすい仕組みとなっているか
子育て支援サービス	保育	・保育所等の充実度（時間外保育や一時保育、病児・病後児保育など）はどうなっているか
	子育て支援	・子育て支援拠点などの施設は、地域の親世代にとって身近な利用しやすい場所となっているか
働き方・男女共同参画	WLB	・仕事と育児を両立しやすい環境が整っているか
	男女共同参画	・ 職場での男性の育休の取得状況はどうなっているか
経済・雇用	雇用・所得	・経済的安定性に関する満足度（所得や働き続けられる安心感）と、育児のしやすさはバランスが取れているか
	生活コスト	・子育てや住環境などの生活コストはどうなっているか

《ワーク》 要因仮説を踏まえた調査内容の検討

- ✓ STEP 2 で検討した仮説を踏まえて、調査と仮説との関係性に関するねらいをつけ、調査の内容や協力者、時期を整理する

No	調査・検討のねらい (検証する仮説)	調査の内容	協力者	実施 時期	担当者
例	Uターン者に対する支援が足りないので平均子ども数も市全体に比べ低くなっているのではないか	Uターン子持ち世帯のUターン理由、ハードル、ハードルを乗り越えた方法	移住相談窓口 地域の不動産屋	●月頃	子育て支援課
1	記載のPOINT① 調査・検討のねらい（調査によって検証したい仮説）と調査の内容を対応させながら整理することで、この後の検証作業につなげていく	記載のPOINT② 調査の検討を通じて、必要に応じて適宜客観的データや指標の収集についても再検討を行う			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

調査内容の検討例 (栃木県佐野市・2022年度)

- ✓ A～Dの4つのプロジェクトチームそれぞれでアンケートを設計し、実施した。調査結果はチーム間で共有して意見交換を行い、各チームで設定した仮説についての検証を行った

No	調査・検討のねらい (検証する仮説)	調査の内容・方法	協力者	担当者
1	<p>【Aチーム】</p> <p>・第1子を出産することのハードルが低くなれば、出生率の低下を防げるのではないかと感じるのではないかと推測)</p> <p>(出生率内訳で第2子の指標は平均以上であることから推測)</p>	<p>【調査内容】</p> <p>・子供を産むことについてどう思っているか</p> <p>・第1子で不安に感じたこと</p> <p>・子を持たない理由</p> <p>【調査方法】 若手職員へのアンケート</p>	30代以下の市職員	総合戦略推進室
2	<p>【Bチーム】</p> <p>・子育て支援を推進する企業では、子育てへの負担感が少なく、婚姻率や子がいる割合が高いのではないかと推測)</p> <p>・そのような企業に対して支援を行うことが少子化対策につながるのではないかと推測)</p>	<p>【調査内容】</p> <p>・子育てと仕事を両立するために必要なことは何か</p> <p>【調査方法】</p> <p>くるみん認定企業に対してアンケート</p>	くるみん認定企業の女性従業員	人権・男女共同参画課 総合戦略推進室
3	<p>【Cチーム】</p> <p>・戸建て住宅(マイホーム)を所有しやすい支援があれば、他市に比べて子育てしやすいと感じるのではないかと推測)</p> <p>(佐野市の持ち家所有率は他市と比較して低いことから推測)</p>	<p>【調査内容】</p> <p>・戸建て住宅を購入したいかどうか</p> <p>・3世代同居についてどう思っているか</p> <p>【調査方法】</p> <p>乳児検診に来た保護者にアンケート</p>	乳児検診に来た保護者	健康増進課
4	<p>【Dチーム】</p> <p>・店舗数が多くにぎわう環境はできているが、交流できる場が少ないので結婚相手を見つけることができず、結婚につながらないのではないかと推測)</p>	<p>【調査内容】</p> <p>・交流の場の種類、交流の方法について</p> <p>【調査方法】</p> <p>若手職員へのアンケート</p>	30代以下の市職員(未婚、既婚)	総合戦略推進室

調査内容の検討例 (三重県名張市・2022年度)

- ✓ チームのメンバーでもある地域の大学生などの協力も得ながら複数のデータに基づく仮説を設定して、その根拠を深掘りして調べるために様々な主体を対象にヒアリングを行った

No	調査・検討のねらい (検証する仮説)	調査の内容・方法	協力者	担当者
1	第3子の出生率が向上している一方、 全体の合計特殊出生率が低いのは、 子どもを産み育てにくい背景があるのではないか。	【調査内容】 理想の子どもの人数と現在の子どもの人数の差やその要因 【調査方法】 WEBアンケートや子育て広場等での利用者（保護者）へのヒアリング	子育て広場等の利用者	地域活力創生室
2	社会減の大部分を占める若年層が市外に流出した後 に名張市に帰ってこない一因は、名張の就職情報が 手に入りにくいからではないか。	【調査内容】 名張市（市を含めた近郊エリア）の就職情報は 手に入るかどうか 【調査方法】 市内出身の大学生に対してヒアリング	市内出身の 大学生	地域活力創生室
3	女性の労働力の低さが、世帯収入の低さにつながり、 経済的な理由から多子の持ちにくさにつながる 可能性がある中で、 労働力の低さの要因について、 ①名張市に住む女性にとって働く場所が少ない （働きたいが働く場所がない）のではないか。 ②就労意欲がそもそもないか、低いのではないか。	【調査内容】 求職者（女性）の状況 【調査方法】 ハローワークへのヒアリング	ハローワーク プラザ名張	地域活力創生室

【解説】 目的に応じて適切な調査の手法を検討する

調査によって検証したい仮説をイメージした上で、目的に応じて調査の手法を検討する

- ✓ 調査の手法として、例えば地域住民等を対象とした「アンケート調査」や「ヒアリング調査」などがあるが、こういった手法を取る場合でも、調査の設計・実施に当たっては、調査を通じて検証したい仮説のイメージをもって取り組むことが重要

調査の実施に向けた考え方

- 調査内容について検討するに当たっては、メンバーとも相談し、**既存の類似調査がないか確認し、調査の設計に当たって参考にすることが重要**
- 調査によって検証したい仮説が明確に整理されていない場合には、実際の調査を始める前に、例えばサンプルを限定して事前にヒアリング等を行うなどして、調査したい内容や検証したい仮説のイメージの具体化を行うことも有効
→ 例えば、課題の仮説をもとに「・・・の人たちは～ではないか？」という問いを立てるなどして、調査の内容を検討する
- 調査設計について検討するに当たっては、**調査対象者の負担や回収可能性を考慮して、調査結果の活用用途も念頭に置きながら、調査内容の優先順位付けや効率化を検討することも重要であり、目的や用途を踏まえて適切な調査手法を検討する**

(整理する事項の例) ◎ 調査の目的・対象者 (どのような仮説を検討したいか。子どもの年齢や人数、移住者などどのような属性の者を対象とするか)

◎ 調査手法 (アンケート・ヒアリング等)、サンプル数 / ◎ 調査対象者の選定・依頼の方法 (ヒアリング日時の調整・アンケートの送付方法等)

「アンケート調査」の考え方 (例)

メリット	◎ 広く声を集めることができ、集計データ化できる
デメリット	△ 配布コストがかかる、深い意見を聞くことはできない
準備 ～実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 集計イメージを先に作成し、取得すべき項目や効率的な集計方法をあらかじめ検討して調査設計する ✓ 質問・選択肢は、認識のずれが出ないように尋ね方に留意し、希望する回収数を考慮して全体のボリュームを検討する ✓ 調査対象としたい属性の人物が多く集まる場所や所属先の協力を得られれば、配布・回収コストを抑えられる ✓ 無記名の方が回収数は確保できるが、アンケート後に深掘りして調査したい場合などを想定して記名式とすることも有効 (任意の記名式とし、深掘りの同意を尋ねることも一案)
集計 ～分析	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 単純集計に加えて、クロス集計を活用することで、属性間の関係性や違いなどを確認する ➢ 調査対象者による意見の偏り (バイアス) に留意する

目的に応じて
手法を選択

「ヒアリング調査」の考え方 (例)

メリット	◎ 深く話を聞くことができ、新たな発見や洞察を得られる
デメリット	△ サンプル数が限られる、調査員に一定のスキル・時間が必要
準備 ～実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 調査員の資質に依存しないよう、標準化した質問票や工程に関するマニュアルを用意しておく ✓ 調査の冒頭に、調査の目的や結果の活用方法を伝える ✓ 正直な回答を引き出せるよう、センシティブな質問の尋ね方に注意し、周囲の環境や雰囲気づくりにも気を配る ✓ 新たな洞察を得るためには、事前に用意した質問票通りでなくてもよく、相手が話しやすい流れも大切にする ✓ 回答者の負担や時間を考慮し、優先順位をつけて質問する
集計 ～分析	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 回答者の属性を考慮しながら、ヒアリングで得た情報が課題の仮説にどう結びついているのか関係性を洞察する ➢ 集計結果の集約に当たっては、個人情報に配慮しつつも、エピソードにまとめると結果の共有の際に共感を得やすい

【解説】地域の状況を踏まえて、調査対象を検討する

調査の対象として協力を求める地域資源については、様々な視点から検討して当事者の声を集める

- ✓ 調査の検討に当たって、まずはどういった主体に調査を行えば実態が把握できるか、調査対象を検討する
- ✓ 原課・原係が過去に行ったアンケート・ヒアリングの記録や保有している各種データに加えて、窓口の担当職員の知見など、調査したい内容について情報を持っていると見込まれる担当課に協力を依頼する
- ✓ 庁外の様々な地域資源（事業者や施設など）にも協力を求めて、当事者の声や実態を把握することも有効である

調査対象となる“地域資源”の参考例

● 出産や子育てに関すること

- 保育園、幼稚園、子育て支援拠点
- 地域の子育てサークル、サロン
- 産婦人科
- 保健師
- 企業の人事担当（労働環境） 等



● 結婚や子育て世代の転出入に関すること

- 隣接地域も含む高校、専門学校、大学
- 移住相談の窓口（自地域や都市圏の出先）
- 小・中学校、学習塾
- 自治会、消防団
- 不動産事業者
- 結婚式場のプランナー、マッチング事業者 等



プロジェクトチームのメンバーが地域の実態を把握できていない場合でも、**当事者と接点がある庁内外の関係者に話を聞きに行くことで、調査の精度・スピードが向上**
 ・職員だけでは財源や作業負担などの制約を考慮しがちだが、**外部へのヒアリングを行うことで、地域のニーズを踏まえた利用者目線での取組の検討につながる**

新たに調査するだけでなく、既に実施済みの住民意識に関するアンケート調査などを活用する

- ✓ 調査にかけることができる時間と人員が限られる中、新たな調査の実施のほか、既存の調査等を活用することも有用である
- ✓ 各市町村において総合計画や基本計画の策定時に実施した住民への意識調査などを活用することも検討する
- ✓ 分野別の各種計画（子ども・子育て、男女共同参画、等）策定時などにおいて個別に意識調査が実施されていることもあるため、メンバーや関係部署に声かけして、利用できる意識調査・アンケート調査を収集し、議論に活用することも検討する
- ✓ その他、都道府県等が実施している市町村間の比較が可能な意識調査結果等があれば、それを活用する

既存の主観調査の参考例・2020年度

【北海道江別市】

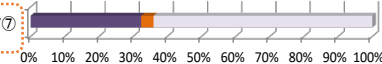
市が過去に実施した各種の意識調査結果を、分野ごとに整理した資料を作成し、メンバーに共有

◎経済・雇用

【雇用1】

■ 規程or制度あり ■ 導入予定 ■ 予定なし

出産等を理由に退職した女性職員の再就職雇用制度について⑦



【雇用2】

■ フルタイム ■ パート・アルバイト ■ 以前は就労していたが無職 ■ 就労したことが無い

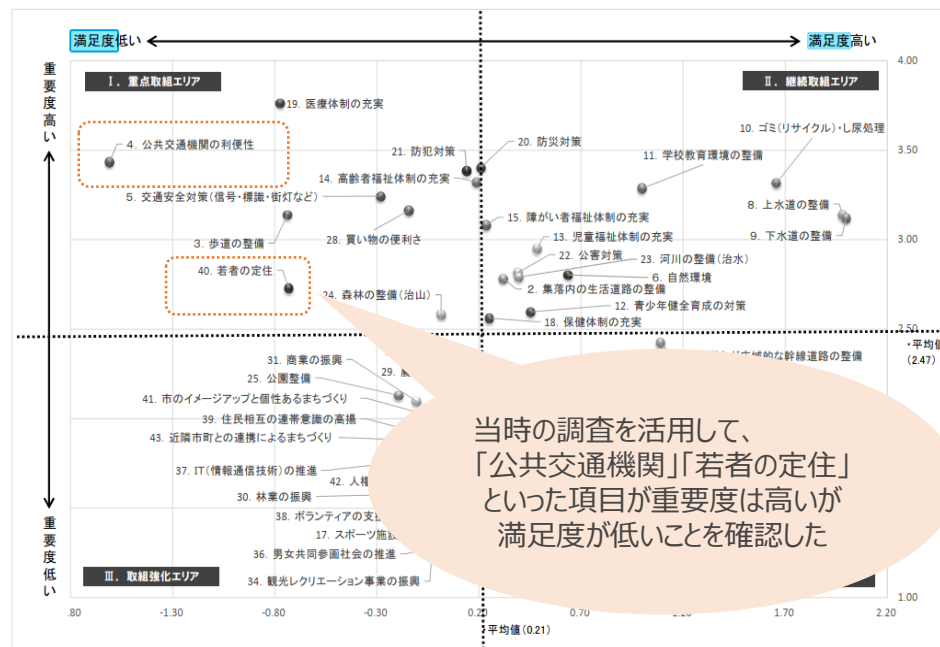


複数のアンケートから母親の就労支援にまつわる調査結果を抜き出した

(資料) 江別市(原資料は同市「男女共同参画・企業意識調査」及び「子ども子育て支援ニーズ調査」)

【三重県いなべ市】

総合計画時に策定した、施策別の重要度・満足度に関する意識調査結果を活用



(資料) いなべ市「第2次(前期)いなべ市総合計画策定のためのまちづくり市民満足度調査報告書」

調査設計の検討例（高知県安芸市・2021年度）

主観調査の設計（仮説等）

<客観調査から分かったこと>

- 合計特殊出生率の内訳について、**第1子は全国平均、県平均を下回っているが、**
- 第2子、第3子において、全国平均、県平均を上回っている**



<有識者によるアドバイスから得られた示唆>

- ギャップの分析が重要
- こどもを産む前の不安と不安の軽減要因を調べられると良いのではないかと




<主観調査に向けて設定した仮説>

- ✓ 1人目を生み育てたら、子育て支援が充実しており子育てしやすい環境だと実感する人が多いのではないかと
- ✓ こどもを望む世帯に障壁があることが、**第1子の出生率が低い要因**ではないかと
- ✓ この障壁を明らかにして、軽減する取組を行うことが安芸市には必要なのではないかと

少子化対策アンケート調査の設問

- 市民の出産についての障壁を明らかにするために実施
- 保育園に通所する子どもの保護者へアンケートを配布（回収数：189世帯）

回答期限：令和3年10月29日（金）



少子化対策アンケート調査

この度、安芸市の少子化問題の解決を図るべく、アンケートを実施することになりました。つきましては、以下のアンケートへのご協力をお願いいたします。なおこのアンケートの回答内容は他の目的に使用したり、回答者個人が特定されたりすることはありません。

(1) ご回答いただく方について教えてください。

性別 男性 女性
 年齢 10代 20代 30代 40代 50代以上
 ご出身 安芸市内 安芸市外
 仕事環境 共働き 専業主婦（夫） その他
 妻の親の居住地 同居 近居（2時間圏内） 遠方 いない
 夫の親の居住地 同居 近居（2時間圏内） 遠方 いない
 こどもの人数 1人 2人 3人以上（人）

★妊娠・出産に関して

(2) 第1子の妊娠直前のことを教えてください。

夫の職業 農林漁業 自営業 会社員（正規） 会社員（非正規） 公務員
 パート・アルバイト 無職 その他（ ）
 妻の職業 農林漁業 自営業 会社員（正規） 会社員（非正規） 公務員
 パート・アルバイト 無職 その他（ ）
 妻の年齢（ 歳）

(3) 妊娠・出産に際し、妻の仕事はどうしましたか？

正規のまま産休取得 正規から非正規に切り替え 正規・非正規から退職 もともと無職
 その他（ ）

(4) 第1子の妊娠・出産に踏み切る前の不安要素は何でしたか？（いくつでも）

配偶者の理解・協力 親の理解・協力 職場の理解・協力 仕事への支障
 キャリアアップ 産休・育休がとれない・短い 身近に子育て世代の知り合いがいない
 自分の生活が安定していない 自分の時間がとれなくなる 出産への恐怖
 出産費用 育児・教育費用
 その他（ ）

(5) それらの不安がある中で、第1子の妊娠・出産に踏み切った理由として考えられるものを教えてください。（いくつでも）

配偶者の理解・協力 親の理解・協力 職場の理解・協力 仕事の安定 収入の安定
 生活の安定 住居の確保 身近な人や知人の体験談 出産についての知識 妻の年齢
 その他（ ）

裏面に続きます➡

(6) 第1子の妊娠・出産に踏み切るために、どのようなサポートがあればよいと思いますか？

(7) 理想の子どもの数は何人ですか。
 1人 2人 3人以上（人）

(8) 「実際の子どもの数」が(7)で回答した「理想の子どもの数」より少ない方にお聞きします。
 「実際の子どもの数」が「理想の子どもの数」より少ない理由は何ですか（いくつでも）。
 子育て支援が充実していない 配偶者の協力が得られない 親世帯の協力が得られない
 職場の理解や支援が得られない 妊娠、出産、育児に費用がかかる 教育に費用がかかる
 年齢的な理由 身体的な理由
 その他（ ）

(9) 「実際の子どもの数」が(7)で回答した「理想の子どもの数」より少ない方にお聞きします。
 「実際の子どもの数」と「理想の子どもの数」のギャップを解消するために、どのようなサポートがあればよいと思いますか。

★出会い・結婚について

(10) 配偶者との出会いのきっかけは何ですか。
 学校や職場 知人・友人の紹介 親や親戚の紹介 合コン お見合い 婚活イベント（市内）
 婚活イベント（市外） 結婚相談所や結婚紹介サービス インターネットの婚活サイト
 その他（ ）

(11) 安芸市には学校・職場以外での出会いの場がどの程度あると思いますか。
 多い 普通 少ない

(12) (11)で「少ない」と回答した方にお聞きします。
 安芸市にはどのような出会いの場が必要であると思いますか。

(13) 結婚を希望する方が結婚するためには、どのようなサポートがあればよいと思いますか。

(14) その他、安芸市の少子化対策へのご意見やご感想があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

調査設計の検討例（栃木県日光市・2022年度）

主観調査の設計（仮説等）

<客観調査からわかったこと>

- 未婚率が上昇し、男女の有配偶率も低下している（女性県内ワースト1位、男性県内ワースト9位）
- 第1子の合計特殊出生率は国・県と比較して低い水準にある
- 出生率は第2子では国・県と同水準だが、第3子以降は県平均を超える水準



<主観調査に向けて設定した仮説>

✓ 結婚と第1子を産むまでに大きなカベがあるのではないかと



アンケート調査の設問

- 結婚・出産・子育てに関する状況・意識調査
- 市内在住18歳を対象にした、インターネットによるアンケート調査

	独身（結婚の経験なし）	結婚していた方	結婚している方(事実婚を含む。)
共通項目	1 住まいの地域 2 性別 3 子育てと家庭の両立に必要なこと 4 少子化対策全般として、どのような取組が必要か 5 就労状況① 就労あり ・1日の平均的な労働時間、1週間の平均的な労働日数、勤務年数、前年の収入、雇用形態、業種、従業員数 ② 就労なし ・収入を伴う仕事をしたいか 6 結婚の状況（ア 独身(結婚の経験なし) イ 結婚していた方 ウ 結婚している方（事実婚を含む。））		
個別項目	7 誰と住んでいるか 8 独身でいる理由 9 結婚することのメリットの有無 10 結婚に対する考え ① いずれは結婚したい場合 ・どのような状況になれば結婚するか ・異性と知り合う機会の有無 ・婚姻活動の有無 あり→活動内容 なし→活動しない理由 ② 結婚するつもりはない場合 ・結婚に対する考え方の変化の有無 ありの場合はその理由	7 出会ったきっかけ 8 最終的に結婚を決めた理由 9 婚姻活動の有無 10 住まいの状況（誰と住んでいるか、居住形態） 11 子どもの養育の有無 ① ありの場合 ・子育てに関する配偶者の家族・養育頻度、ご夫婦の親の関わり、子育て制度・子育てサービスの利用状況（子どもの数ごとに）	11 子どもの有無 ① 子どもあり ・子どもの数が理想どおりか ・子どもの数が理想より少ない理由 ② 子どもをもつことへの不安 ・あり→妊娠に対する不安、妊娠中、安心して過ごすために必要なこと ③ 産後の不安、実際に困ったこと ④ 子育ての配偶者の家族・養育頻度、ご夫婦の親の関わり、子育て制度・子育てサービスの利用状況（子どもの数ごとに） (2) ① 子どもなしの方 ・子どもを望むか ・「望む」場合：理想の子どもの数 ② 子どもを望まない方 ・理由 (3) 子どもは今はいない方 ・子どもを望むか ・理想の子どもの数
	12 子育て施策、教育施策の満足度の有無 13 子育てしやすい環境		

アンケートに当たっての工夫点

QRコード配布によるスムーズな回答
地域の団体への協力依頼

- ◎ 回答のしやすさを考慮し、ウェブ上でアンケートを実施
- ◎ 子育て世代の調査の回答の手間を少なくするため、QRコードを貼付した市長名の調査回答協力文を配布
- ◎ 教育委員会（校長会）、保育課（保育園等施設長会議）、青年会議所等に協力を依頼しアンケートを配布
- ◎ QRコード活用も含め配布・回答しやすい環境づくりをした結果、1,181件のアンケート結果を回収

調査設計の検討例（高知県土佐町・2021年度）

主観調査の設計（仮説等）

<客観調査から分かったこと>

- 出生数は第3子以降のこどもがいる子たくさん家庭に支えられ、一定程度維持できている
- 統計から、合計特殊出生率に占める第3子以降の割合は全国や県平均より高いが、経年で見ると低下傾向にある
- 近年の出生数の内訳を分析したところ、転入者が出生数に与える影響が大きいことが分かった



<主観調査に向けて設定した仮説>

- ✓ 以前と比較して町内の出生の状況が変わってきて、**こどもが多い世帯と少ない・いない世帯の二極化等が進んでいる**のではないかと

ヒアリング対象

- ①土佐町出身、町で第1子から子育て
※これまでずっと土佐町で暮らしていた
- ②土佐町出身、町で第2子以降から子育て
(土佐町で子どもの数が増加)
※Uターン
- ③土佐町外出身、町で第1子から子育て
※Iターン
- ④土佐町外出身、町で第2子以降から子育て
(土佐町で子どもの数が増加)
※Iターン

住民へのヒアリング調査の項目

- 土佐町の特徴を把握するため、4つの属性を設定し、約30名の町内の子育て世帯を対象にヒアリングを実施

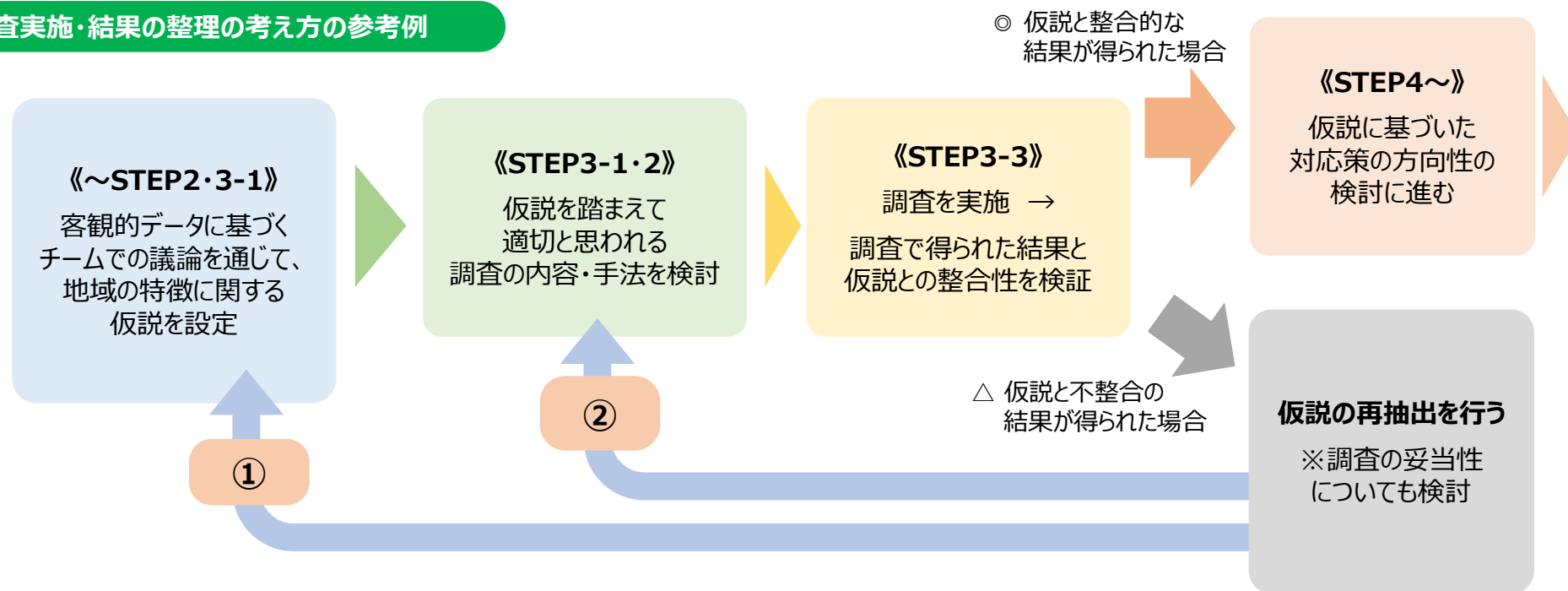
No	ヒアリング項目
1	あなたと配偶者のことを教えてください。 【性別】男性、女性 【年代】20代、30代、40代、50代 【ご出身（ご夫婦それぞれ）】土佐町内、土佐町外 【これまでの居住地（ご夫婦それぞれ）】ずっと町内、Uターン、Iターン 【仕事環境】共働き、専業主婦（夫）、その他 【親の居住地（ご夫婦それぞれ）】同居、近居、遠方、いない 【子供の人数】1人、2人、3人以上
2	<Uターン、Iターンの方のみ> どういったタイミングで土佐町に戻りましたか／来られましたか。また、土佐町へのU/Iターンを考えたきっかけは何ですか。
3	<Uターン、Iターンの方のみ> U/Iターンを検討されたときの課題や不安は何でしたか。それはどのように解消されましたか。
4	<Uターン、Iターンの方のみ> 実際に土佐町にU/Iターンされて、よかった点、悪かった点は何でしたか。
5	<Uターン、Iターンの方のみ> U/Iターン前の子どもの数と、U/Iターン後の子どもの数を教えてください。 U/Iターン後に第2子以降を出産された場合、移住が妊娠・出産に影響を与えましたか。
6	<全員> ※第1子について 第1子の妊娠・出産について教えてください。 その時のご両親のお仕事の状況と、奥様が仕事をされていた場合は産休・育休をとったのか、退職されたのか教えてください。
7	<全員> ※第1子について 第1子の妊娠・出産に際して、どのような不安がありましたか。また、それはどのように解消されましたか。
8	<2人以上子どもがいる方のみ> 2人目以降の妊娠・出産のとき、上の子どもの育児はどうされましたか。（夫、同居／近居の家族など）
9	<全員> ※望む子どもの数 理想の子どもの数は何人ですか。 (その数よりも実際のお子さんの数が少ない場合) 実際のお子さんの数が理想の子ども数よりも少ない理由は何ですか。
10	<全員> ※サポート策 子どもを産み育てるために、どのようなサポート策があると良いと思いますか。

【解説】 調査を実施し、結果を基に仮説を検証する

設計した内容に沿って調査を行い、調査結果に照らして仮説の整合性を検証する

- ✓ アンケートやヒアリング等の主観調査の結果が得られたら、これまで設定した仮説の検証につなげる
- ✓ 想定したとおりの結果が得られない場合も数多くあるが、その場合は結果にフィットするよう仮説設定の見直し（再設定）を行ったり、調査対象の属性や尋ね方の恣意性などバイアスが含まれていないか調査の内容・方法そのものの検証を行う
- ✓ 新規調査で得られた結果については、客観的データや既存の類似調査、他地域の状況等と比較し、様々な観点で整合性を分析しながら、仮説が正しいかどうかについての検証につなげる

調査実施・結果の整理の考え方の参考例



① データによる仮説の導き出し方に齟齬がある可能性 ⇒ 他の指標や他地域の状況など複合的な目線を持ち、仮説の再設定に取り組む

② 実施した調査の内容や手法が不適切の可能性 ⇒ 余力があれば再度の調査を実施する / 得られた結果から別の仮説を検討してみる

《ワーク》 実施した調査の結果と今後の検討方針をまとめる

- ✓ 調査の設計及び結果について、以下のシートに調査 1 つにつき 1 枚ずつでまとめる
- ✓ 調査によって得られた結果とこれを踏まえた分析（過去の類似調査等との比較など）を踏まえて、仮説との整合性を確かめながら今後の検討方針（検討を更に進める、検討の方向性を変える 等）を記載する

調査設計	調査名称	
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	
	対象	
	実施時期	
	調査方法	
	調査項目	
調査結果	回収数	
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <p><新たに得られた発見や洞察></p>

記載のPOINT

設定した仮説と調査結果が整合的でないということがわかった場合、調査結果から得られた新たな発見を明確に整理することが重要

そこから新たな仮説を設定し、更に検証する内容を設定するという「仮説設定→検証→仮説設定→検証…」のサイクルを繰り返すことで、少子化に関する課題の解像度を増すことにつながる

調査結果を踏まえた今後の検討方針

○調査結果の分析（過去の調査結果や傾向との比較等）を踏まえて記載する

ワークブック : p.14

調査実施の参考例 (栃木県日光市・2022年度) 1 / 2

※次ページへ続く

調査設計	調査名称	日光市結婚・出産・子育てに関する状況・意識調査
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	<p>① <u>有配偶率の低迷「結婚のカベ」独身（結婚の経験なし）</u> ※ 結婚している方(事実婚を含む。)→出会ったきっかけ、最終的に結婚を決めた理由も活用 <<仮説>> ア：出会いのきっかけ・機会が少ないのではないか。自力で結婚相手を見つけられない人もいるのではないか。 イ：結婚を希望しない層も増えており、自力で結婚相手を見つけられない層もいるのではないか。</p> <p>② <u>合計特殊出生率「第1子のカベ」結婚していた方、結婚している方(事実婚を含む。)</u> <<仮説>> ア：結婚・出産への不安など「子どもを産む環境」と「就労・働く環境」が左右しているのではないか。 イ：低所得、低賃金、核家族化、1人親世帯などの要因がどう左右し第1子のカベになっているのか。 ウ：事業所の育休制度が未整備、又は制度自体があっても実績はないことが、第1子を産むまでのカベになっているのではないか。 エ：「結婚の次は出産」ではなく、子を持たないという選択肢が浸透しているのではないか。または、経済的理由で子どもを持ちたくても持てないのか。 オ：2人目から3人目を産む環境は何か。配偶者の子育て支援、家族支援などの環境が関係しているのではないか。 父母、祖父母が近居や同一敷地に住んでいるなど、家族の子育てのサポートが受けられる環境が身近にあるのではないか。</p>
	対象	市内在住18歳以上（保育園、幼稚園、小学校、中学校、日光青年会議所、市役所(職員)、学校(教員)）
	実施時期	令和4年10月18日～11月2日
	調査方法	アンケート調査(インターネット調査)
	調査項目	<p>① <u>独身者</u> 独身でいること理由、結婚することのメリットの有無、出会う機会、婚姻活動の有無など</p> <p>② <u>結婚していた方、結婚している方(事実婚を含む。)</u> 子どもを持つこと不安、産後の不安・実際に困ったこと、子育てに対する配偶者の養育頻度、親の関わり・子育てサービスの利用状況など</p>
調査結果	回収数	1,181件
	調査結果概要	<p><仮説の検証結果></p> <p>① <u>有配偶率の低迷「結婚のカベ」</u> ア：出会いのきっかけ・機会が少なく、限定されている。自力で結婚相手を見つけられない人もいる。(仮説◎) ※ 婚姻活動には積極的ではない(参加しにくい、費用負担)。「自然の出会いを待ちたい」との意見が多い。 イ：結婚を希望しない層は少なく、「良い相手に巡り合えば結婚したい」「経済的余裕が出れば結婚したい」などの意見が多い。(仮説×)</p> <p>② <u>合計特殊出生率「第1子のカベ」</u> ア：子ども1人(女性)→「理想より少ない」と感じている 教育・子育てにお金がかかる／仕事と子育ての両立が難しい／配偶者との考え方の相違など イ：2人目から3人目を産む環境 ・父母、祖父母の支援→市内で別居が多く、父母や祖父母の支援は受けられる状況にある。 ・配偶者、親の関わりが継続的にあると、2子以上の出産につながりやすい傾向がある。</p>

調査により、仮説の正(ア)、否(イ)が判明し、さらに実態の深掘りにつながった

調査実施の参考例（栃木県日光市・2022年度） 2 / 2

※前ページの続き

調査結果	調査結果概要	<p><新たに得られた発見や洞察></p> <p>ア：結婚を希望しない層は少なかった。</p> <p>イ：「結婚の次は出産」ではなく、子を持たないという選択肢について →現在、子どもがいない方でも、子どもを望む方が多かった。 子どもを望まない理由「年齢が高いため」</p>
------	--------	---



調査結果を踏まえた 今後の検討方針	<p>1 有配偶率の低迷「結婚」のカベの改善</p> <p>① 独身者</p> <ul style="list-style-type: none"> 結婚への意欲増進につながる意識喚起の取組（独身の方） 出会い・交流の場がないことを意識した取組→公民館、サクシード日光(勤労青少年ホーム)等の事業を活用し、出会いと交流のきっかけ創出事業を実施する。 など <p>② 日光商工会議所、日光青年会議所等と連携</p> <p>ア：事業所への育児休暇制度の啓発・環境整備、「仕事と家庭の両立のしやすさ」に向けた環境整備</p> <p>③ 小学生・中学生・高校の各学校段階で、将来の親となる世代に対し、結婚・出産・妊娠・子育て・仕事に関し、将来のライフデザインを希望どおりに描けるようにするための教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来親となった際に、必要となる子育ての態度を育てるなど <p>2 合計特殊出生率の低下「第1子」のカベの改善 (子育て世帯の約75%が共働き世代)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産後ケアの充実（費用、相談など） 特に、育児・子育ての心身の疲労の軽減への支援（リフレッシュ事業） ※ 仕事と家庭の両立のしやすさ（子育てしやすい意識と環境の整備） <p>⇒ 方針案①結婚したい人がパートナーに出会って結婚できる暮らし実現のためのワーク・ライフ・バランスの促進 方針案②希望どおり子どもを持ち、子育てに負担を感じない暮らし実現のためのワーク・ライフ・バランスの促進</p>	<p>調査から得られた発見や洞察を、対応策の検討につなげていく</p>
----------------------	---	-------------------------------------

調査実施の参考例 (三重県名張市・2022年度)

調査設計	調査名称	市内出身の大学生に対しヒアリング
	調査・検討のねらい (検証する仮説)	社会減の大部分を占める若年層が市外へ転出した後に名張に帰ってこない一因は、名張の就職情報が手に入りにくいからではないか。
	対象	市内出身の大学生
	実施時期	令和4年10月25日
	調査方法	市内出身の大学生へのヒアリング
	調査項目	市外の大学等において名張市の求人情報が手に入りやすいのか
調査結果	調査結果概要	<p>【以下、ヒアリング結果】 求人情報の取得方法は主に以下の2つが多い。</p> <p>① 民間の大手就職情報サイト 大手の就職情報サイトで業種やエリアを絞って調べるが、「名張市」で検索しても情報が少ない (サイトA:3社、サイトB:11社) しかも、複数ある営業所のうちの1つに名張市が含まれていることが多い。 本社は別にあるので地元で就職したい人は本当に名張で就職できるか不安に感じている。</p> <p>② 大学のキャリアサポートからの情報 大学が各都道府県や市区町村のインターンシップなどの情報を提供してくれるのでそこから応募する。 しかし、近畿、北陸などの情報が多く三重はまだ1件しかみたことがない。 名張から奈良、大阪、愛知の大学に行っている人はたくさんいるのでそのあたりの大学に情報を出していくのがよいのでは？</p> <p>○ 就職先がないというイメージが先行 就職情報サイトや大学から情報がなければそれ以上はないと思う人が多いと思う</p> <p>○ 名張でキラキラ働けるイメージができてない 名張に活気がない感じがするからなのか工場が多いのは知っているけどそこで何が作られているのか知らないからなのか？</p>

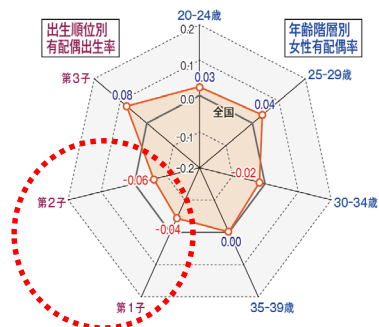
ヒアリングでは、対応策の検討も見据えて課題点を深掘りする

調査結果を踏まえた
今後の検討方針

- 働く場を作ること (企業誘致) も重要であるが、それ以上に、**大学生等に対し、名張にどのような企業があり、どのような人を求めているのかといった情報が十分に渡っていない傾向が見える。**
- **大学生がどのようなところから情報を取得しているのかを把握した上で、行政や企業がそこにアプローチしていくことが重要である。**

調査実施の参考例 (京都府宮津市・2021年度)**主観調査の設計 (仮説等)****<客観調査からわかったこと>**

- 第1子と第2子の有配偶出生率が低い



宮津市の出生構造レーダーチャート
(京都府 地域子育て環境「見える化」ツールより)

**<主観調査に向けて設定した仮説>**

- ✓ 宮津市に住んでいる子育て世代の人は、**第1子、第2子の出産に対してハードルがある (宮津市の子育て環境に何らかの課題がある)**のではないかと

ヒアリングの実施内容と得られた回答

- 子育て当事者が宮津市の少子化の要因や子育て環境をどう考えているか、何を求めているかを把握するため、**子育てママを対象としたワークショップ**を実施

<実施概要>

- 参加者：子育て当事者 (子育てサークル主催者、子育て支援センター職員等)、市役所職員、コーディネーター
- 令和3年度に3回開催 (1回あたり2時間)
- 子育て当事者が考える課題や地域のかかわり方、子育てママが求めるもの、等について意見交換

<第1回の主な質問と回答>

- 子育て当事者が考える少子化の要因は？少子化対策は？
→**若い人が少ない、土地が高い、煩わしさ、高齢出産、出会いが少ない** 等
- 子育てサークル・支援活動を行っている保護者同士の連携、組織化
→文化活動や芸術に触れ合う機会が少ない、地域との関わりを土台に子育て活動をしている 等

<第2回の主な質問と回答>

- 子育てと地域との関わり方について
→**お金や時間をかけず集まれる・しゃべれる機会を作りたい、子育て中のママが持っているスキルを様々な場面で活用すべき、父親の行事参加** 等

<第3回の主な質問と回答>

- 外国人ママの感じていること
→日本語が分からない中での出産や健診に困った、日本語を学べる場がほしい 等
- ママが幸せを感じる場所とは？あったらいいなと思うことは？
→**子連れでお茶ができる場所、ちょっと子どもと離れる時間、ちょっと働ける場がほしい** 等



子育てママ対象のワークショップの様子